

牛久：学校周辺に見る自然

第27号 牛久第二小学校

2019年2月17日発行

＜ 冬の校庭で、生き物たちの冬ごしのくふうを観察しよう ①冬芽（ふゆめ） ＞

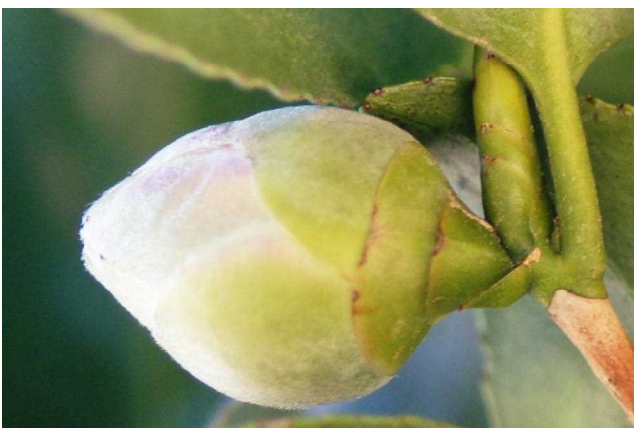
気温は4℃と低いものの、よく晴れて風もおだやかな1月23日に、牛久二小の4年生たちと、校庭の生き物観察をしました。今年の冬は、ガのまゆやミノムシなどがいつもより少なく感じていて、あまり見つからないようなら探す場所のヒントをあげようと思っていたのですが、そんな心配無用とばかりに、次々と見つけていってくれましたね。さすがは二小4年生、いい目をもっています。では、まず、植物から紹介しましょう。木の枝先や葉の付いていたあとには、冬芽がついています。



あたたかそうな毛皮のコートを着たようなコブシ（上左）とハクモクレン（上中）の冬芽。重ね着をしたようにたくさんのうろこのようなものに包まれたシロダモの冬芽（上右）。短い毛のはえたうろこを重ね着したアオギリの冬芽（下左）。小さな葉に包まれたガクアジサイの冬芽（下右）。



冬芽の中には葉や茎、花の赤ちゃんが未発達のままぎっしりつまっています。その赤ちゃんを冬の寒さや乾燥から守っているのが冬芽なのです。いろいろなタイプがあって、コブシの花芽のように暖かそうな毛皮のコートを着たようなのもあれば、シロダモやドウダンツツジなどのようにたくさんのうろこのようなもので包まれたものもあります。庭や公園の木でも、どんな冬芽がついているか観察してみませんか？【理科支援員：宮内】



ツバキの冬芽（左：細長いのが葉や茎の芽、そのつけ根から出る丸い大きなのが花芽）と花芽の縦断面（右）。